

1 学校教育目標

○よく考え進んで実行する子 ○なかよく助け合う子 ○心も体もきたえる子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自ら学び、自ら考え、学ぶ意欲を育成する学校 ・心と体の健康づくりを進め、豊かな人間関係を育成する学校 ・保護者・地域・教職員が互いに尊重・理解し合い、協働で児童を育成する学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学び、考え、判断し、問題を解決しようとする児童 ・素直で明るく、優しく、進んであいさつができる児童 ・お互いに、心を耕し、体を鍛え、高め合う児童
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の心が分かり、熱意と使命感のある教師 ・どの子も分かる喜びをもてる授業をつくり、自らも学び続ける教師 ・組織人としての自覚をもち、主体的に学校運営に参画する教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

- 学校…児童一人一人の基礎的・基本的な学習内容の定着を図るために個別指導に力を入れている。学習直後は定着が図られ、児童の自己肯定感も高まっているが、読解力になお、課題がある。特色ある教育活動として、落語や俳句、百人一首、将棋等の伝統的文化活動を積極的に進めている。
- 児童…明るく素直な児童が多く、落ち着いて学校生活を送っている。自ら考え、主体的に取り組む姿勢を育てていきたい。
- 教師…日々の教育活動に熱心に取り組み、授業改善を図っている。外国語活動・外国語科の校内研究に熱心に取り組み、授業力向上を目指している。
- 地域・保護者…PTA、開かれた学校づくり協議会、放課後子ども教室、学習支援ボランティアなど学校への理解が厚く、協力的であり、日々支えられている。

【成果と課題】

- 学力向上…学力向上部会を中心に、全校で基礎学力の定着・向上に取り組んだ。その結果、当初の区学力調査結果の数値が10月の再実施では、国語・算数ともに4月調査の結果より+8%になった。さらに2月に実施した本年度（現学年）の区学力調査通過率では、区平均と同じ83.7%となった。今後も引き続き基礎的・基本的な内容の定着が不十分な児童に対して、個に応じた指導を充実させることと、全児童に読解力をつけていくこと。また、地域や地域人材を活用させていただき、体験的活動を一層推進していく中で、児童が知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力を高め、主体的・協働的に学ぶ学習を目指していく。
- 健康な心身の育成…あいさつを重視して、あたたかな人間関係を育ててきた。今後も思いやりの心をさらに育てていく。いじめや不登校傾向、児童の生活指導上の問題行動等には、全校で共通理解を図りながら組織的に対応してきた。また、日頃から体力向上を意識し、計画的に取り組んでいく。
- 家庭・地域との連携…地域の幼稚園・保育園・中学校とできる形で交流を進めてきた。また、地域や地域人材を活用させていただき学習を進めることができた。今後は、活動したことの発信に努め、引き続き地域の中の湊江小学校として活動し、学校愛・地域愛を育てていく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	◎	◎	◎	◎
2	健康な心身の育成	○	◎	◎	◎	○
3	家庭・地域との連携	○	○	○	○	○

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
国語・算数の基礎的・基本的な学習内容の定着		4月には国語・算数共に80%、10月の再調査では、90%の通過率を目指す。		4月は国語・算数ともに81.3%の通過率。6月に早めて実施した再調査では、国語・算数ともに91%の通過率となった。		4月は目標通過率を達成。再調査は10月の予定を6月に早めて実施し、目標通過率を達成。各学年学習してきた成果を出すことができた。		◎	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
継続	けやきタイム	国語 ・算数	週1時間	全学年の担任が読解力に特化した指導とつまずき解消に向けた指導を行う。	区学力調査年度末の目標通過率80%以上	年間20回以上実施	年間23～31回実施。年度末2教科平均82.9%の通過率。	次年度も引き続き実施し、充実を図る。	◎
継続	パワーアップタイム	国語 ・算数	火:計算 水:読書 木:漢字 金:作文	朝の会開始前15分で実施。火曜・木曜はAIドリルの活用で個に応じた漢字・計算の学習と音読、水曜は読書、金曜は短作文に取り組み、読み・書き・計算の力を身に付けさせる。	管理職による確認	1年のみ6月から。2年以上は、4月から各担任が100パーセント実施する。	全学級100%実施できた。	パワーアップタイムの運営研修会を実施し、全学級で共通理解して取り組んだ。短作文により、短時間で自分の考えをまとめる力がついてきた。AIドリルを活用し、個に応じた取り組みを実施した。	◎

継続	ICTを活用した授業	全教科	通年	授業の中でICTを活用する。	授業観察	自己申告時に1回以上授業公開。	3回の授業観察の中で1回以上、タブレット活用の授業を行った。	ロングの研修を2回、研修内容の周知にもClassroomを活用した。全教員が授業で活用している。	◎
継続	放課後補習教室 (けやき教室)	国語 算数	火・金・ の週2 回設定	【指導者体制】 担任+専科+COM教員 【取組のねらい・目的】 つまずきのある児童の補習を行う。 【どのように】 演習を中心に個別指導。	1回30分×年間30回以上	補習開始時と終了後の確認テストで正答率を80%以上にする。	4月から3月まで全32回実施した。正答率(実施後)を概ね80~100%にすることができた。	放課後学習のシステムにのっとり、全学年一致した行動で取り組んだ。今後も継続して、つまずきに特化した補習内容をしていく。	◎
継続	算数・漢字コンテスト	全学年	夏・冬休み前	長期休業前に「算数・漢字コンテスト」として定着度テストを実施する。	年2回実施	80%で合格。不合格者は、休業明けに再テスト実施。9割の児童が合格。	夏は算数・漢字が88.6%、88.9%。冬は97.5%、95.8%の合格となった。	児童のやる気が成果として表れ、自信につながった。	◎
新規	読書活動	全学年	通年	足立読書通帳の活用。年間低学年80冊以上、中学年50冊、高学年30冊以上。	読書通帳の点検	100%	1,3,4年100%、2年88%、5年96%、6年94%の児童が目標を達成した。	読んでいても記録していない等課題がある。改善を図っていく。	△

重点的な取組事項－2		健康な心身の育成								
A 今年度の成果目標		達成基準		実施結果		コメント・課題		達成度		
<ul style="list-style-type: none"> 思いやりの気持ちと態度の育成。 年間を通じた体力向上へ向けての取組を積極的に行う。 		<ul style="list-style-type: none"> 年3回のいじめ調査において、対応後、すべて解決する。 日常の体育の時間に計画的に取り入れる。 		<ul style="list-style-type: none"> いじめ調査で出てきた課題はすぐに対応し解決を図ってきた。 体育の時間の他、家庭で取り組むカードも活用し、計画的に取り組んだ。 		<ul style="list-style-type: none"> 高学年が低学年をリードできる。 区平均を上回る項目が増え日頃の取り組みの成果が表れた。 		○		
B 目標実現に向けた取組み										
項目		達成基準		具体的な方策		実施結果		コメント・課題		達成度

気持ちの良い挨拶と規範意識の向上	学校評価アンケート「挨拶と規範意識」の肯定的評価 80%以上。	<ul style="list-style-type: none"> 「挨拶・返事・くつそろえ」を年間を通して指導。 家庭・地域への啓発。 	<ul style="list-style-type: none"> 登下校の挨拶や返事、くつそろえはできている。保護者アンケート評価は 81.6%が肯定的。 	校内での挨拶を重点課題としていく。	○
交流活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> たてわり班活動を年 8 回以上実施する。 異学年交流を 2 回以上実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画を基に、たてわり班活動を実施する。 学習の中に、異学年との交流を計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> たてわり班活動 8 回 + 1 回実施。 異学年交流も実施した。 	高学年が低学年をリードし、やさしく声掛けをする姿がたくさん見られた。	◎
体育的活動の充実	体力向上に向け、年間を通して全校で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> 体力調査の項目について、体育授業の始め 5 分に取り入れ、年間を通じて向上を図る。 中休みの外遊びとふちえパークの計画的活用。 	<ul style="list-style-type: none"> 全担任が意識して取り組んだ。 中休みの外遊びも実施した。ふちえパークの休み時間の活用は今一歩だったが授業の中では取り組んだ。 	過去 3 年間と比較して、区平均を上回る項目が増え、上回らなくとも、僅差となっている。今後も続ける。	○

重点的な取組事項－ 3	家庭・地域との連携
--------------------	-----------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
学校・家庭・地域の中に、「家庭・地域と共に育つ学校」という共通意識をもつ。	学校評価アンケート「連携について」の肯定的評価 80%以上。	保護者アンケートでは、肯定的評価が前期 65.4%、後期 73.4%、平均すると 69.4%だった。	連携に向け、取り組みは充実させたが、アンケート結果に表れなかった。引き続き、啓発を図り、共通意識をもてるようにしていく。	○

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
地域や地域人材を活用させていただく教材の開発	各学年 2 回以上実施	1, 2 年は生活科で公園探検や地域探検、3～6 年は社会・総合的な学習の時間での地域人材や外部機関との連携学習を実施する。	1 年 6 回、2 年 5 回、3 年 7 回、4 年 7 回、5 年 5 回、6 年 7 回取り組んだ。それ以外に学校全体では 3 回実施した。	今後もつながりを大切にし、地域人材や外部機関との連携学習を実施していく。	◎
保護者による年間 2 回の学校評価の実施	2 回の学校評価アンケートの平均回収率 70%以上	年 2 回アンケートを実施。変容の分析と課題への迅速な対応・改善。	保護者による年間 2 回の学校評価を実施し、回収率は 77.6%。また、保護者の意見に対しても個々に丁寧に対応することができた。	いただいた意見等にお答えし改善してきた。引き続き地域・保護者の声を取り入れ、教育活動を進めていく。	◎

幼保小中連携	小中連携は授業研究の交流3回、その他の研修4回、生徒・児童交流は、2回実施。幼保小連携は、園児・児童交流2回以上、教員交流3回以上実施。	8分科会に分かれての授業改善と評価についての研究・研修を実施。また、園児との交流を2回以上行う。	幼保小中連携は園児・児童交流2回。その他が5回・小中連携は授業研究3回、その他の研修4回、児童・生徒交流2回実施、教員交流3回以上実施した。	今後も充実を図っていく。	◎
--------	--	--	--	--------------	---

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

学力向上アクションプランについて

- 【課題】・4月の区調査において国語・算数ともに通過率が81.3%であり昨年度より国語は+2.9ポイント、算数では、+0.2ポイントとなった。また、2月に実施した現学年の調査では、国語80.3%・算数85.5%の通過率となり、算数で成果が表れている。国語では、継続して読解力の向上や書かれていることや問われていることを根気よく正しく理解できるようになることが必要である。
- 【対策】・授業では、大仙市の取り組みを核に、めあてから振り返りまで児童主体の授業づくりを意識し、取り組んでいく。
- ・補習では、読解力・思考力育成のため、「けやきタイム」を月1回にはなるが全学年で実施し、活用力を育てる教材を使用して国語・算数の指導を継続する。
 - ・個別指導では、長期休業前の「算数・漢字コンテスト」では、児童の取組意欲を高めることができ、夏冬共に、9割の児童が合格することができ、成果が表れている。引き続き取り組むとともに、かけ算九九検定も実施していく。ICTの活用でも児童の活用の場を広げることができたのでAIドリルを朝のパワーアップタイムに引き続き取り入れ、個に応じた課題に取り組ませ、一人一人の課題克服を図っていく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

教員は日々授業改善しながら毎日の授業に取り組んでいます。また外国語活動・外国語科の研究にも取り組んでいることで教員の授業力も向上してきています。放課後補充教室である「放課後けやき教室」では子供たちと個別に向き合い、基礎・基本の定着に努力しております。4月の学力調査は前年度より+1.6%の結果が出ました。6月の再調査では91%の児童が前年度までの学習内容をクリアしました。また、PTAや開かれた学校づくり協議会の皆様のご協力の下、理科園芸委員の児童と共に花いっぱい活動に取り組み、今年も優秀賞を足立区からいただきました。生活科や総合的な学習の時間等で地域に出かけたり地域の皆様のご協力を得たりして活動し、外部機関を含めると、1年6回、2年5回、3年7回、4年7回、5年5回、6年7回地域や地域の皆様、外部機関との連携を図った学習に取り組むことができました。その他、学校全体では3回実施できました。今後も地域・社会に開かれた学校として、地域や地域の皆様のご協力をいただき、学習を充実させていきたいと思っています。そして「地域の中之洲江小学校」として活動させていただきます。「笑顔あふれる洲江小」を常に目標に掲げ、進化し続けたいと考えています。

(3) その他(学校教育活動全般について)

足立区教育委員会指導力向上中核校(外国語活動・外国語科)として、研究をすすめて4年目を終えた。外国語以外でも授業力を高めようと教員同士が高め合っている。生活面では校帽を忘れる児童が激減し、全体的に落ち着いている。今後も組織的に対応と指導を行い、規範意識の向上に努めていく。あいさつの取組は、今後も継続していく。体力向上では少しずつ成果が出ている。今後も年間を通して取り組み、向上を図る。本校の伝統である、「落語・俳句・将棋・百人一首」にも多くの方が関わってくださるおかげで、児童も活躍の場を広げている。今年度は、新たな試みとしてタブレットを活用して「句会」を実施した。今後も、保護者・地域の皆様との連携を密にし、協力をいただきながら、学校・保護者・地域が一つになって「笑顔あふれる洲江小」にしていく。そのために、日々生じる課題に迅速に対応しながら、持続可能な活動を模索していきたい。

